

3階層モデルに基づくSQA活動

パナソニック アドバンスドテクノロジー株式会社
エンジニアリングセンター

- ・はじめに
- ・これまでのSQA活動の課題
- ・3階層モデルのSQAとは
 - 上級SQA
 - プロジェクトSQA
 - 形式SQA
- ・プロジェクトの活動との関係(例)
- ・今後の取り組み

◆なぜ、ソフトウェアの品質保証は難しい？

実態が見えにくく、品質度合いの確認が難しい
－「見えないものは仕方がない」(あきらめ)



プロジェクトで、品質の確認が十分実施されない
－「最後に何とかなる」(楽観)

品質を保証するには、
実態を客観的に確認できることが必要

「見える化」は品質保証のスタートライン

◆これまでのSQA活動について

課題① 隣の部門と活動内容が異なる

- ・実施度、定着度にバラツキ
- ・一部の活動と捉え、殆ど実施していない部門もあった

課題② 監査を形式的なものと捉えている

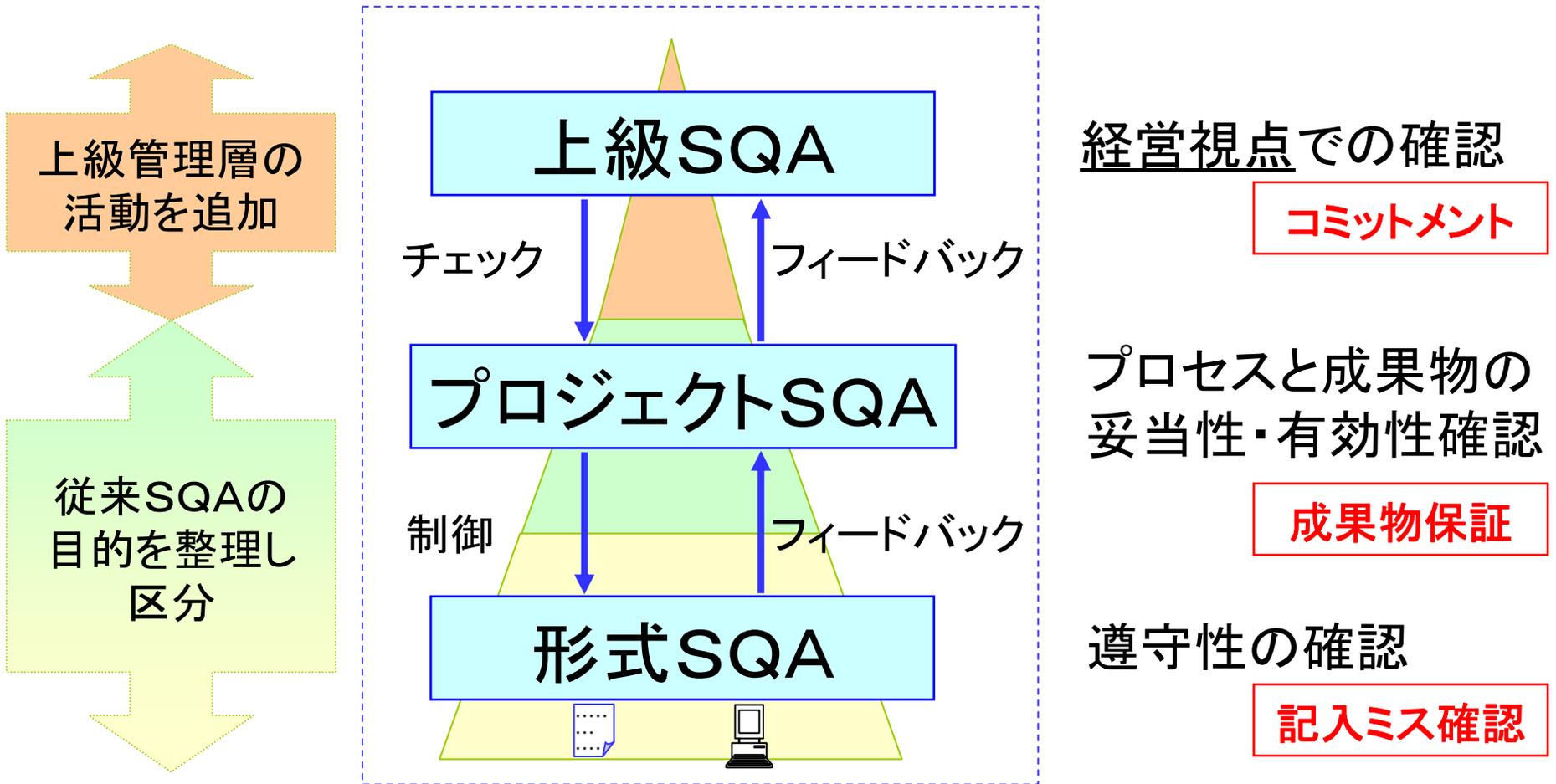
- ・準備不足で、誤字や記載ミスの確認に終わる場合もある

課題③ SQAで検出した課題を共有する機会が少ない

- ・組織へのフィードバックがされにくい

活動の実態は「見える化」以前で、改善が必要

階層別SEPGの事例を応用し、SQAに階層モデルを適用



階層別・目的別にSQA活動を定義し、適用

① 上級管理層の活動を組織のしくみとして定義

上級管理層による経営視点での確認・コミットを品質保証の活動と位置づけ、SQAプロセスとして定義し、「上級SQA」と名づけた。

② 記入ミス等の確認を効率化し、監査の質を向上

プロジェクトリーダーが「形式SQA」としてあらかじめ、チェックシートによる自己診断を行なってミスを検出。「プロジェクトSQA」での指摘の質を低下させない。

経営層・現場・第三者の3つの目で品質保証を実行

◆定義

プロジェクト起案からリリース後の影響まで含めた、経営視点での品質保証

◆観点

- ・方針・目標に照らしプロジェクト実施の可否判断
- ・プロジェクトの効果(価値)確認
- ・コンプライアンス等の問題検出

◆実施者

上級管理者

上級管理者がリスクを確認し、コミットする

◆定義

プロジェクトのプロセスとプロダクトに対する
品質保証

◆観点

- ・プロジェクトのプロセスは品質を満たすことができるか
- ・成果物は要求された品質を満たしているか

◆実施者

SQA担当者

第三者によるプロセスとプロダクトの確認

◆定義

プロセスの遵守性保証

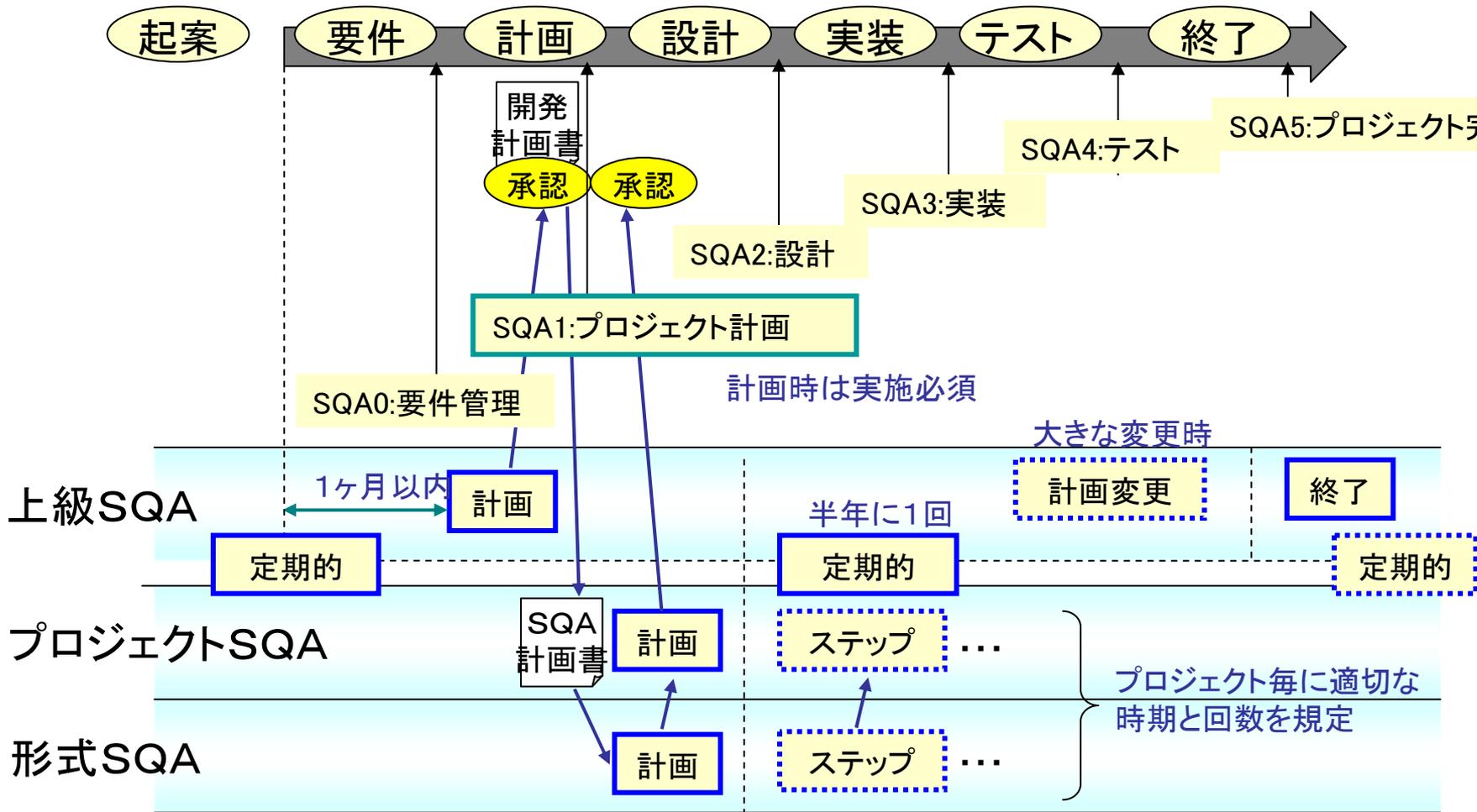
◆観点

- プロジェクトの活動が、定義したプロセスや計画の通り実施されているか
- 組織プロセスから逸脱していないか

◆実施者

プロジェクトリーダー(自己診断)

記入漏れなどのミスは自己診断で検出



ライフサイクルを通じて各階層でSQAを計画・実施

【まとめ】

経営層の活動を含む品質保証体系を導入

- ・組織のしくみとして、プロジェクト方向性やリスクに対しコミットする
- ・自己診断(形式SQA)でミスを減らし、監査の質を低下させない

【今後の取組み】

SQA活動の質向上

- ・監査の状況や指摘内容の分析に基づき、
 - ①3階層のSQAの目的達成度の評価とSQAプロセス改善
 - ②課題の傾向・原因を組織で共有し、再発予防のためのしくみに

最終ゴールは、品質の徹底的な「見える化」実現